

# たじみん昼話 148

## 大学や社会で必要な3つの力

大学で活躍するために必要な普遍的基礎力は、真似する力、段取りする力、要約する力の3力だ。以下の大学を職場と変換すれば社会で必要な普遍的基礎力も同様だ。

### (1)真似する力

大学は研究を行うところだ。だから入学後に第一に取り組むべきことは、研究方法を身に付けることだ。先輩や教授に教えてもらうことと並行して、何が重要で課題はどこにあるのかを考えながら、先輩や教授の動きや考え方を詳細に観察し理解に努めることだ。教えてもらうという受け身の姿勢では、言語化できない重要なコツ等は身につかないからだ。自分特有の課題を見出し、それを試行錯誤しながら自分の方法で解決する経験を通して、はじめて研究方法は身につくからだ。だから、最初のうちはコツも含めて全て盗み取る意識を持って、先輩や教授の手法を観察して頭に焼き付けることだ。そして完璧に真似ることが出来るまで実際に頭や手を動かし続けることだ。自分オリジナルの研究方法を編み出すのは、それが出来た後だ。

### (2)段取りする力

先輩や教授の研究手法の真似が完成したら、次に必要なのは段取り力だ。1人前の研究者は、自分なりの研究方法やスタイルを確立している。身に付けた先輩や教授の基本的スタイルから、新しい自分の研究スタイルを確立しなければ、一人前の研究者とは言えない。したがって、身に付けた方法を基盤に、独自の研究デザインを組み上げていかなければならない。この自分の研究デザインを創造して他の研究者達と差別化を図るために必要なのが、研究計画を創り上げる力である段取り力だ。経験を積むとまとめ役として研究室全体を巻き込んだプロジェクトを牽引することになるだろう。そのときに必要なのが、全体の士気を高めて研究計画を遂行する段取り力なのだ。

### (3)要約する力

要約する力は、話の要約力と質問力を合わせた総合的な表現する力を指す。他の人に研究の流れを理解させることはもちろんだが、話の要点を掴む表現や質問によって考えを誘導することで、新しい発見を促すことが可能になるからだ。したがって他人に自分の思いや考えを伝えるだけでなく、他の人の話を上手くまとめる力や的確な質問力は必須なのだ。これが身につくとコミュニケーションがスムーズに進み、研究室や職場を活性化することもできるのだ。また立場が指導者レベルになると、コメントを求められる機会も増えることが予想される。このようなときに必要な力が、研究結果や仕事結果、途中の場面におけるコメント力だからだ。